



昭和59年度

総会報告



第34号

発行所
全国曹洞宗青年会
 〒105 東京都港区芝
 2-5-2 曹洞宗事務庁内
 編集発行 全国曹洞宗青年会
 TEL. 03-454-5411代

おだやかな陽ざしが窓から入り、好天に恵まれた五月十一日、前日の「禅のつどい中央研修会」に引き続き、結成十周年の記念すべき昭和五十九年度総会が宗務庁研修道場に於て開催された。

参集された会員諸兄の、再会を喜び合うなごやかな雰囲気は毎年の事ながら、併催されたOB結集参加の方々の「わしらはもう老兵で……」と申される謙遜のお言葉はどうしてどうして、意気盛んなご様子はお顔の色が表わしておられた。

午前十時、菊池裕光総合企画委員長の司会進行により、開会諷経

先ず、大谷副会長より、昭和五十八年度の事業報告があり研修委員会では後期禅のつどい中央研修会が、遠隔地の会員諸兄が参加し易い様にと三会場において実施され、福島会場、京都会場、神奈川県と「食」をテーマに各地域の会員諸兄の尽力により豊かな内容の研修会となったこと。又禅文化学林も未曾有の豪雪がようやく終わろうとする三月に大本山永平寺を会場に百二十名の参加をみて、不老閣現下の御垂示、監院老師の法話、平山郁夫先生の「シルクロードに結ぶ仏教文化」の講演等があったことや、各地方大会の成果等が

報告された。全曹青事業、曹青地方事業の各内容、日程の報告は「曹青通信」32号掲載。

事業委員会としては、食事訓の作成配布、各地講演のテープを集め、講演集の発刊を計画して今年九月を発刊予定として現在進行中であること。禅のつどい用のTシャツ販売を実施、五千着の発送を見たこと。各種の物品販売をなした事など。

広報委員会は、「曹青通信」の充実につとめ、記念の30号を含め、会員及び、単位曹青との情報交流をめざしていること。

組織委員会は、組織の充実をはかるため、各管区単位で開催される地方集會等に全曹青の追い求めているものを理解していただくべく働きかけて来た事が報告された。

続いて十周年記念特別事業の経過報告が松倉委員長からなされ、58年59年度の二ヶ年にわたり関係各機関と折衝しながら企画立案し、特に記念大会(事業)を催すことに関して、宗務当局のご配慮を得て59年度に特別予算を拠出いただいたこと。各企画とも具体化し確実なものとなって来ているので全国の曹青会員の更にご協力を賜り円成すべく計画をすすめていることを報告された。(具体的企画内容については「曹青通信」33号参照下さい。)

本尊上供(導師、桜井会長)が厳修され、続いて、小田原利仁教化部長老師より、洞門の実践教化は青年僧侶にこそが原動力であるとの激励のお言葉があり、続いて桜井会長より、「厳しい自覚で教化の実践を」をスローガンにすすめて来た事業計画の大きなみのりと、全国の青年会組織の力強い歩み、今後の会運営の抱負を含め挨拶があった。そして事務局より総会出席人数および委任状二百十四通の報告、総会資料の確認がなされた。

議長には久楽宗哲君、副議長に我妻耕道君が選出され、議事録作成人に大海事務局次長、署名人に山田康成君が指名されいよいよ議事に入った。

報告された。(全曹青事業、曹青地方事業の各内容、日程の報告は「曹青通信」32号掲載)

事業委員会としては、食事訓の作成配布、各地講演のテープを集め、講演集の発刊を計画して今年九月を発刊予定として現在進行中であること。禅のつどい用のTシャツ販売を実施、五千着の発送を見たこと。各種の物品販売をなした事など。

広報委員会は、「曹青通信」の充実につとめ、記念の30号を含め、会員及び、単位曹青との情報交流をめざしていること。

組織委員会は、組織の充実をはかるため、各管区単位で開催される地方集會等に全曹青の追い求めているものを理解していただくべく働きかけて来た事が報告された。

続いて十周年記念特別事業の経過報告が松倉委員長からなされ、58年59年度の二ヶ年にわたり関係各機関と折衝しながら企画立案し、特に記念大会(事業)を催すことに関して、宗務当局のご配慮を得て59年度に特別予算を拠出いただいたこと。各企画とも具体化し確実なものとなって来ているので全国の曹青会員の更にご協力を賜り円成すべく計画をすすめていることを報告された。(具体的企画内容については「曹青通信」33号参照下さい。)

昭和58年度決算書

昭和58年4月1日～昭和59年3月31日

(歳入)

款	項	目	本年度予算額	決算額	増減
1. 会費			1,000,000	508,000	△492,000
	1 正会員		900,000	497,000	△403,000
	2 賛助会員		100,000	11,000	△ 89,000
2. 参加費			1,100,000	1,027,000	△ 73,000
	1 前期禅のつどい中央研修会		150,000	157,000	7,000
	2 後期禅のつどい中央研修会		150,000	0	△150,000
	3 禅文化学林		800,000	870,000	70,000
3. 宗務庁助成金			7,000,000	7,000,000	0
	1 宗務庁助成金		7,000,000	7,000,000	0
4. 出版収入			500,000	657,700	157,700
	1 広告		500,000	657,700	157,700
5. 雑収入			30,000	6,734	△23,266
	1 利子等		30,000	6,734	△23,266
6. 繰越金			187,931	187,931	0
	1 前年度繰越金		187,931	187,931	0
合計			9,817,931	9,387,365.	△430,566

次に昭和五十八年度の決算報告が峰岸副会長から提出され、監査委員を代表して佐野令彬君が監査報告した後、出席した諸兄より質疑がかわされ可決承認された。更に、松岡副会長より昭和五十

九年度事業計画案が、峰岸副会長より予算案が提出され、事業報告決算報告の時と同様、各地方に於て工夫実践されている経験豊かな質疑がなされ、これまた原案どおり可決成立した。

(歳出)

款	項	目	本年度予算額	決算額	増減	内訳
1. 会議費			1,400,000	1,526,801	126,801	
	1 総代会	運営費	300,000	402,520	102,520	
	2 理事会	"	700,000	806,870	106,870	
	3 評議員会	"	400,000	317,411	△ 82,589	
2. 本部費			1,990,000	1,774,644	△215,356	
	1 事務費		150,000	120,000	△ 30,000	
	2 運営費		900,000	795,730	△104,270	
	3 出張費		450,000	423,848	△ 26,152	
	4 通信費		290,000	314,376	24,376	
	5 資料購入費		50,000	0	△ 50,000	
	6 印刷費		100,000	103,830	3,830	
	7 雑費		50,000	16,860	△ 33,140	
3. 組織拡充費			1,360,000	1,390,000	30,000	
	1 地方集會補助費		1,360,000	1,390,000	30,000	17万×8.3万円
4. 事業費			3,960,000	3,176,037	△783,963	
	1 総合企画委員会	運営費	450,000	355,593	△ 94,407	
	2 研修 "	"	500,000	259,976	△240,024	
	3 事業 "	"	500,000	446,680	△ 53,320	
	4 広報 "	"	200,000	29,955	△170,045	
	5 組織 "	"	240,000	0	△240,000	
	6 禅の集い中央研修会	"	300,000	852,130	552,130	
	7 禅文化学林	"	800,000	1,206,154	406,154	
	8 講演録	作成費	400,000	0	△400,000	
	9 シンポジウム「仏教を語る」	運営費	500,000	0	△500,000	
	10 雑費		70,000	25,549	△ 44,451	
5. 広報費			1,080,000	1,340,486	260,486	
	1 普及通信	編集諸経費	100,000	90,000	△ 10,000	
	2 印刷費		500,000	869,530	369,530	
	3 郵送費		400,000	372,486	△ 27,514	
	4 雑費		80,000	8,470	△ 71,530	
6. 子備費			27,931			
	1 子備費		27,931			
合計			9,817,931	9,207,968	△609,963	差引残高 179,397円

全曹青役員

- 会長 桜井孝順 静岡県
- 副会長 峰岸秀哉 群馬県
- 同 大谷俊定 京都府
- 同 松岡秀雄 山口県
- 同 新美忍雄 愛知県
- 事務局長 大海修一 新潟県
- 同 佐野令彬 愛知県
- 同 菊地伯也 岩手県
- 同 吉岡棟憲 福島県
- 同 小原宜弘 茨城県
- 同 佐藤孝一 新潟県
- 同 小原智司 愛知県
- 同 浅井真澄 奈良県
- 同 鈴木章純 広島県
- 同 久賀永雄 佐賀県
- 同 高島武彦 愛媛県
- 同 井川悦導 東京都
- 総合企画委員長 菊池裕光 岩手県
- 事業委員長 宇野全匡 山形県
- 組織委員長 小原宜弘 茨城県
- 研修委員長 安藤実英 神奈川県
- 広報委員長 平和宏昭 兵庫県
- 特別事業委員長 松倉紘洋 群馬県

昭和59年度予算書

(歳入)

昭和59年4月1日～昭和60年3月31日

承認

創立10周年記念事業

予算八二〇万計上

今年度予算一一〇〇万余

款	項	目	前年度予算額	本年度予算額	増 減
1	会 費		1,000,000	1,000,000	0
	1.	正 会 員	900,000	900,000	0
	2.	賛 助 会 費	100,000	100,000	0
2	参 加 費		1,100,000	1,300,000	200,000
	1.	前期禪のつどい中央 研修会	150,000	250,000	100,000
	2.	後期禪のつどい中央 研修会	150,000	250,000	100,000
	3.	禪文化学林	800,000	800,000	0
3	宗務庁助成金		7,000,000	8,000,000	1,000,000
	1.	宗務庁助成金	7,000,000	8,000,000	1,000,000
4	出版収入		500,000	500,000	0
	1.	広 告	500,000	500,000	0
5	雑 収 入		30,000	30,000	0
	1.	利 子 等	30,000	30,000	0
6	繰 越 金		187,931	179,397	△ 8,534
	1.	前年度繰越金	187,931	179,397	△ 8,534
合 計			9,817,931	11,009,397	1,191,466

(歳出)

款	項	目	前年度予算額	本年度予算額	増 減	内 訳
1	会 議 費		1,400,000	1,500,000	100,000	
	1.	総 理 会	300,000	300,000	0	
	2.	理 事 会	700,000	700,000	0	4回
	3.	評 議 員 会	400,000	500,000	100,000	各県会長及び県曹青を代表する者
2	本 部 費		1,990,000	2,190,000	200,000	
	1.	総合企画委員会	450,000	550,000	100,000	
	2.	事務局費	900,000	900,000	0	
	3.	事務費	150,000	150,000	0	
		運営費	290,000	290,000	0	
		通信費	150,000	150,000	0	
		印刷資料費	0	100,000	100,000	
		会議費	50,000	50,000	0	
		雑 費	2,050,000	2,340,000	290,000	
3	組 織 費		240,000	240,000	0	
	1.	組織委員会費	1,360,000	1,350,000	△ 10,000	15万×9
	2.	地方曹青大会	0	200,000	200,000	
		講師費	450,000	550,000	100,000	
		資料費	1,600,000	1,700,000	100,000	
4	研 修 費		500,000	600,000	100,000	
	1.	研修委員会費	300,000	300,000	0	
	2.	禪のつどい中央研修会	800,000	800,000	0	
	3.	禪文化学林	1,470,000	970,000	△500,000	
5	事 業 費		500,000	520,000	20,000	
	1.	事業委員会費	400,000	400,000	0	講演録等、調査研究費
	2.	事業費	570,000	50,000	△520,000	通信費等
		雑 費	1,280,000	2,000,000	720,000	
6	広 報 費		200,000	250,000	50,000	
	1.	広報委員会費	500,000	1,000,000	500,000	
	2.	広 報 費	200,000	250,000	50,000	
		印刷費	400,000	550,000	150,000	
		郵送費	100,000	150,000	50,000	
		編集経費	80,000	50,000	△30,000	
		雑 費	27,931	309,397	281,466	
7	子 備 費		27,931	309,397	281,466	
	子 備 費	子 備 費	9,817,931	11,009,397	1,191,466	

項	子 算 額	備 考
1	500,000	講師費
2	2,000,000	会場設営費
3	1,100,000	3000部印刷
4	500,000	講師費
5	3,000,000	委員会費、旅費
6	600,000	事務諸経費
7	500,000	
支出合計	8,200,000	

収入の部

項	子 算 額	備 考
1	4,000,000	特別助成金
2	1,000,000	特志寄附金
3	1,000,000	講演録頒布収入
4	2,000,000	微笑仏展
5	200,000	
収入合計	8,200,000	

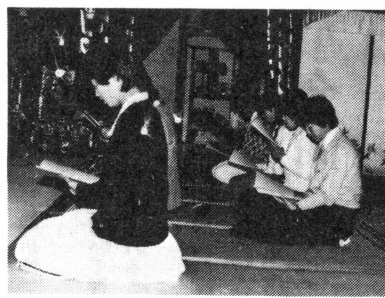
支出の部

全曹青創立10周年
記念事業予算

昭和59年度全曹青事業計画

月	会 議	事 業	そ の 他	月	会 議	事 業	そ の 他
5	9. 事務局会 9. 58年度監査 10. 理事会 11. 評議員会 11. 59年度総会 事務局会	10. 前期禅の集い 中央研修会	10. 曹青通信33号	11		東海地方集会 (名古屋) 関東地方集会 (千葉) 東北地方集会 (岩手)	檀信徒手帳
6	総合企画委員会 理事会 事務局会	北陸地方集会 (新潟) 九州地方集会 (大分)	9. 静岡第三曹青15 周年禅のつどい 資料の作成	12	理 事 会 評 議 員 会 次年度役員選考委 員会		
7		各地禅のつどい 22~25. 洋上セミ ナー (沖 縄)	曹青通信34号	1			曹青通信36号
8			伝道ハガキの作成	2		第7回禅文化学林 (中国桂林の旅)	
9	理事会 事務局会		29. 講演録発行	3		後期禅のつどい研 修会 (3会場)	
10		12~24. 10周年記 念事業 「微笑仏」展 12. 10周年記念式 典	4. 曹青通信35号	4	事務局会 理 事 会		曹青通信37号

全国でも初めてといわれる曹洞宗青年会の女子部が、去る五月十三日岩手県で結成された。これは岩手県曹洞宗青年会会長・菊池裕光、事務局・大船渡市立根町小林四安養寺内)が、二年余の準備期間を経たのち誕生したものである。



初の女子青年会結成



《岩手》

の組織拡充と会員の親睦を図ることがあげられているが、一昨年より、ほぼ青年会組織が全県に浸透したのを機に、当時の斉藤信一會長のもとで女子部結成がすすめられた。当初、青年会内の女子部としての位置付けを考えていたが、会活動を全て同一とするには多少の無理があり、結局、単独組織として結成を促進するという方策がとられていた。

五月十三日、北上市・正覚寺に参集した女子青年の面々は見事に産声をあげた。正式名称は「岩手県曹洞宗女子青年会」といい、氏族会や曹洞宗婦人会との競合をさけるため、会員資格を県内寺院の義務教育終了後の未婚の子女とし、初年度四十四名が登録された。

結成した女子青年会は、会場を市内のホテルに移し、昼食会を開き、初代会長・本田ゆみさんや事

務局長・瀬川顕子らを中心に予算や事業計画の立案にとりかかり、寺の娘としての誇りと自覚をもちつつ、教養セミナー（茶道等）の開催、施設慰問、禅のつどいへの参画、会報の発行等を行うとの大筋の活動計画が策定され、一同の了承を得た。

当面、一人年壹千円の会費と岩手県曹洞宗青年会からの助成金などで運営される。活動にあたっての指導助言は従来通り青年会組織

部があったり、年に二、三回は合同の研修も計画されている。

五月二十一日には岩手県の布教

委員会でも話題に上がり、その育成過程と成果が大いに注目されたが、お寺の娘は寺に嫁に行きたがらない、やりたくない。しかし、

もういならぬ寺の娘を、という矛盾した嫁不足が騒がれている昨今。岩手における女子青年会結成のニュースは宗門の後継者育成の貴重な朗報といえそうだ。

「こころ」なごむ

筑前琵琶と講演のつどい

《静岡》

バスで続々到着、今までと違って若い人々の姿が目立った。

一時より「ハンニヤ心経のこころ」と題して、気象大学教授・ひろさちや先生の講演があり、参加者はこのあと会場を齋堂より法堂へ移り、元宝塚ジュエンス・上原まり女子の筑前琵琶「平家物語を語る」を鑑賞した。母ゆずりの筑前琵琶は観る人の心をゆさぶるものであった。

その後、第三同志会々員等八十名は会場を磐田グランドホテルに移して十五周年を祝った。本会より桜井会長、大谷副会長、小原（智）理事が祝賀のため出席した。

同日は、午前十時より第三同志会の総会が開かれ、一般参加者は十一時より受付がなされ、貸切り



地方集会はじまる

本会組織委員会主管の活動である地方集会が始動しはじめた。

○北信越地方集会

期日 昭和五十九年六月九日
場所 新潟県瑞光寺
新潟県曹洞宗青年会が結成されて五周年を迎えることを記念して開催されたもので、併せて新潟県美術博物館で「永平寺・総持寺・大乘寺・永光寺秘宝展」を開催した。尚、秘宝展は十七日まで。本会より大海修一事務局長次長が出席した。

○九州地方集会

期日 昭和五十九年六月十五日
十六日

場所 別府市 つるみ荘
内容 講演「禅とは何か―外国人からみた禅
講師 ベーナージュ・大圓
（愛知専門尼僧堂）
大法要「大般若御祈禱」
九州地区総会。

併せて、同荘ホールにおいて禅の写真展・仏画展が開催されることになっている。
本会より桜井会長、峯岸秀哉副会長が出席した。

東北曹青幹事会開く

東北地区曹洞宗青年会連絡協議会（会長・楠引章三「青森」の、昭和五十九年度幹事会が、去る六月八日午後四時より、岩手県花巻市のホテル三石エ門で開かれ、予算についての審議、事業計画として本年度の東北集会を岩手で開催することを確認した。

場所 いこいの村「いわて」（岩手県西根町）
内容 葬送儀礼事発表
ソフトボール大会
加盟八曹青を二巡し、今回で二巡目となるが、例年百数十名となる参加者を施設の都合上百名と限定する。

全曹青

OB会開く

昭和五十年十一月、結成以来十周年を迎える本会活動を側面より援助すべく、桑原大宗前会長が代表世話人となってOB会員結果が開かれた。

五月十日、曹洞宗務庁に参集したOB会員は、門脇初代会長ほか歴代会長、事務局長が勢ぞろいしたほか二十数名が集まり、当日全曹青行事に参加した後、午後七時より東京グランドホテル四階美容の間でレセプションが開かれ、旧交をあたためた。

お見舞

かねて本堂新築中であつた本会事務局長・新美忍雄兄の自坊・愛知県報恩寺が、去る五月二十四日落慶を目前にして全焼した。同寺では十年前に水害で庫裡を改築したばかりであつたが、この火災で位牌堂と共に焼失してしまつた。
新美兄の心中は察するにあまりある。早速本会では役員理事が見舞い金を集め届けることにしている。又、愛知第三曹洞宗青年会も救援活動にのりだしている。
尚、新美兄は再建にとり組んでいることになった。

謹しんで一日も早い復興を願いお見舞い申し上げます。

昭和五十九年度

前期禅のつどい中央研修会



今回の研修

はバラエティに富んだもので、まず開会行事のあとに行われたのが、「禅のつどい事例発表」。

事例発表では、昨年度の後期禅のつどい研修会 関東会場「母と子のちかひの

つどい」を録画、そのビデオ研修を行った。

つづいての座談会は、佐藤俊明老師と中野東禅老師による「食について」。

腹がへったからといって、すぐ食べるのでは、あまりがたさ、がわからない。祖先の霊がみまもってくれているから

「おかげさま」という感謝の気持ちをもつ。と約一時間にわたってお二人の「食」についての見識を會員の前で披露された。

つづいての研修は講演。

日本テレビ系のニュース報道番組で有名な、駒沢大学助教授・福岡政行先生の二時間におよぶ講演。

現代の若者はのりすぎる。と評して、現在の大学の現状は教師と学生の親近感が欠けてしまったという。タモリや吉永小百合、久米

宏と机を並べて学んだという先生は、現代人のミイズム、カキクケコ文化、テラテマ病について面白おかしく講義をし、二時間がアツという間に過ぎ去った感じがした講演であった。

午後六時半、薬石。午後七時には、琵琶演奏が予定されていたが、演奏者の都合で八時半となるというハプニングも

あったが、そこは宿泊研修の長所を大いに発揮。元宝塚ジュンヌ・上原まりさんの琵琶の演奏を静かに聞いたのであった。時間の

関係で『平家物語』の一部のみであったが、會員一同、琵琶の音に感銘を受けて、九時半開枕した。

思うに、今回の研修は盛りだくさんで欲ばりすぎた感じがしない

でもないが、中央だからこそできるものを考え、全国から集まった會員がこれからの禅のつどい運営の一助となるもの考えた結果であった。

禅のつどい運動は、戦後の荒廃の社会へ、日本人の心に豊かな灯を与えようと、青年宗侶の叡智の結果で継走され、早や三十年の歴史をささげようとしている。歴史は

繰り返えされ、戦後生まれの父や母がわが子の姿に、自らの育った頃を振り返っている。和尚さん、先日はありがとつ、と街頭での笑顔の出会いに、寝食を共にし、朝

もやの中で包丁を握り朝粥を呈した苦勞を忘れ、つどいの思い出が浮び、よし、また来年もと元気が

わき、人間育成の出会いの道場として、今年も全国各地で共に苦心されている同志と共に禅のつどい運動の発展を祈念するものである。

る。

2台で1セット

●使用時・高さ75cm×開口60cm×奥行40cm
●収納時・タテ85cm×横60cm×厚サ8cm

Aタイプ 55,000円 (ハト返し有り)

Bタイプ 50,000円 (ハト返しなし)

●1台のみの場合は半額●色は、黒色 溜色・朱色

■申し込み資料請求はハガキにてどうぞ。

株式会社 サヤック インターナショナル・ジャパン
〒183 東京都府中市浅間町4-3 電話0423(69)2431

折疊焼香台



- (御用途)
- 屋外供養
- 前卓など
- 本堂焼香
- 説教机
- 墓前供養

十周年記念事業にむけて

全国曹洞宗青年会結成十周年
記念特別事業実行委員会

委員長 松 倉 紘 洋



求めて」とメインテーマを定め、青年僧ならではの活動を多様な実績をつみ重ねつつ進めてまいりました。

特に今回、そのテーマをより広く深く掘り下げ、より大衆的な接点の拡大を願い、かつ全国的な曹青活動を推進して頂く企画展として「微笑仏展」を中心に、洋上セミナー、講演録発刊、禅文化学林を事業の一端に取り入れ企画を進めております。

て、そこに大きなオアシスを出現させ得るものと疑いませぬ。また今回、幸いにも読売新聞社の絶大な支援を頂ける運びとなりました。

それにつけましても、曹青の活動とは何度も確認してまいったように、中央機関が下知をとばしてことたりるものではなく、各青年僧侶の限らない可能性を活動を通じて共に追求してゆく中にこそ本是が果されます。この企画におきましては、全国の石仏が新宿という一点に各々のふるりの祈りもつて集われます。私達はまた都市に出られた各寺院のお檀家の方々もその多くは無意識にもしろこのようにな多くの共通した心情を持っていられることを推察し得ます。

その意味において郷里と都市を結ぶ新しい一筋の糸を当企画展を起点に削り出そうではありませぬ

か。そんな広がりのある活動を諸々具体的に計画しております。「一点に集中し、たえず広がってゆく」そのような曹青活動を是非削り出そうではありませぬか。

主催 読売新聞社
後援 文化庁

大本山永平寺
大本山総持寺
曹洞宗宗務庁

企画 全国曹洞宗青年会

大事業でありますので、企画立案、運営等は本会が主として行いますが、より大衆性をもたせるために、主催を読売新聞社、後援を文化庁にお願いいたしました。

《趣旨》

毎日のようにマスコミをにぎわせる悲しいニュースは、日本人の生活から笑いを、やさしい微笑をうばっています。やさしい微笑を

忘れたから悲惨な事件が相次ぐとも言えましよう。

このような世相の中で、特に心が乾いてしまいつつある都会の人々へ、真の微笑を、慈悲に満ちた永遠の微笑を見ることができらるならば……。それは仏さまの微笑しかありません。仏さまと申しましても様々です。どんな仏さまが、この企画にふさわしいか……。

ご寺院におまつりされているご本尊や、その他多くの仏さまがおいでになりますが、とりわけ、ごく一般に親しみ深いのは、よく道端でお会いするお地藏さまや、山路を歩いていて出会う石の仏さま達であり、あの風雨にさらされながらも深い微笑をたたえておられる姿こそ、多くの人々が一番親しみやすく、感銘を深くするのではないのでしょうか。

中には五百羅漢のように、ユー



微笑仏展

心の愛しき野の仏たち

まずメイン事業である「微笑仏展」は東京新宿の小田急パートという大都市文化を象徴する場所に仏様、特に野の石尊仏にお出ましを頂き都会の人々が求めてやま

ぬ心のうるおいを得ていただきさまの心を伝えんとするものです。東京砂漠といわれて久しい現在の街に、そつと野にたたずむ仏さまの微笑が和顔施の真髄とし

モラスなお顔の中で慈悲をなげかけて下さる仏さまもあります。

この企画は、誠に恐れ多いことではあります。大都市のデパート等、大衆の集る場所に仏さまにお出まし頂いて、和顔施を忘れかけている多くの人々に、真の微笑を、慈愛に満ちた深い微笑を教えて頂き、かつ、仏さまの心を伝えて頂くことの願いを持って立案されたのです。

まのお顔をながめ、やさしい微笑の中に、仏さまの心をほのぼのと受けとめていく情景が、あちこちで見られることでしょう。

【期間】

昭和五十九年十月十二日から昭和五十九年十月二十四日まで

【会場】

新宿 小田急デパート(本館) 十一階小田急ランドギャラリー

【入場料】

大人 六〇〇円
小人 三〇〇円

禅文化学林

天童寺拝登と桂林の旅

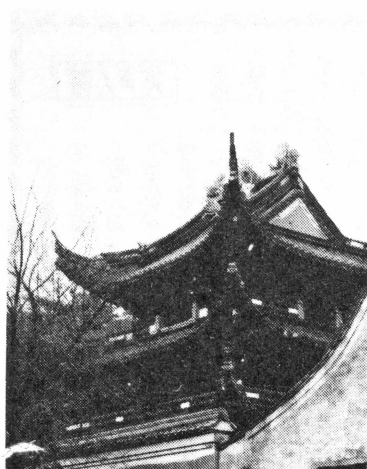
期日 昭和六十年二月十五日より

二十日まで

参加費 二五九、〇〇〇円

募集人員 七十名

結成十周年の記念すべき年にあ



たり、第七回の禅文化学林をわが曹洞宗の源流である天童寺において開催し、じかに中国禅にふれていきたい。更に桂林を訪れ、山水画の世界へもはいる、現地仏教徒との対話も持ちつつ研修の実をあげたいと思います。

これを機会に同信相互の親睦も深めたく、会員

はもとより、知人友人お誘い合わせのうえ御参加下さいませ。う御案内いたし

洋上保養会

日時 昭和五十九年八月二十二日

日二十五日

講師 無着成恭先生

渡辺長武先生(ゴールドメダリスト)

指導 曹青会員

目的地 おきなわ

使用船 大型フェリー飛龍二号

募集人員 二〇〇名

参加費用

大阪着(小)四六、五〇〇円

〃 (中)五〇、〇〇〇円

〃 (大)六二、〇〇〇円

名古屋着(小)四八、〇〇〇円

〃 (中)五一、五〇〇円

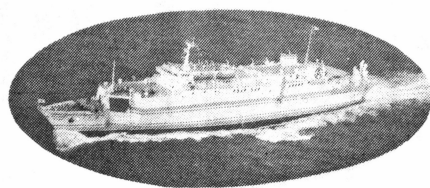
〃 (大)六六、〇〇〇円

東京着(小)四九、五〇〇円

〃 (中)五三、〇〇〇円

〃 (大)六八、〇〇〇円

詳細についてはパンフレットを参照して下さい。



講演録

十周年を迎え、中央研修、地方集会(大会)等における、著名講師陣の講演集の大成。

装丁 B6版約二三〇頁

発行部数 三、〇〇〇冊

頒価検討中

収録講演

「茶の宗教性」 千 宗室

「日本人の心」 無着 成恭

「笑いと人生」 三遊亭円樂

「大衆教化の接点を求めて」 松原 泰道

「葬祭の意味」 奈良 康明

「こころ自由自在」 佐藤 俊明

「食をみなおす」 中野 東禪

「仏のものさし」 青山 俊董

「すなおな心」 松浦 英文

「般若心経のこころ」 ひろさちや

「これでもいいのか食卓」 辻 嘉一

「般若心経の心を歌う」 遠藤 実

発行によせて 桜井 秀雄

あとがき 桜井 孝順

帯(推薦文) 橋田寿賀子

(予定)

発行日 昭和五十九年九月二十九日(両祖忌)

〇実行委員会役員

名誉大会会長 曹洞宗管長

名誉大会副会長 両大本山貫首

相談役 曹洞宗宗務総長

顧問 曹洞宗宗務序部長

門脇 允元

石附 周行

佐藤 泰惇

桑原 大宗

桜井 孝順

松倉 紘洋

大谷 俊定

峰岸 秀哉

松岡 秀雄

新美 忍雄

鈴木 徹大

石仏展 主任 安藤 実英

講演録 主任 平和 宏昭

式典 主任 大海 修一

事務局長 南 敬爾

事務局次長 菊池 裕光

事務局長 小原 宜弘

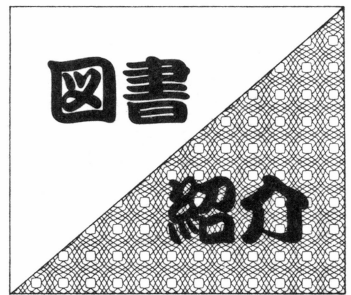
計

天声人語

久しぶりに永平寺(福井県)で座る機会があった。十年前の冬、朝三時から夜九時まで一週間ぶつとおしの座禅(臘八接心)を体験して以来である。にぎやかな観光客の群れが去り、静寂と暗黒に戻った十万坪の山内は、川音しか聞こえない。この世ならぬ思いだが、足が痛むのは同じだった▼ここで二百人ちかい雲水が修行している。だがテレビもラジオもない。肉や魚はもちろん、ニンニクやネギもとらない。「この食事が口に入るまでに、どれだけの人の苦勞があつたか考えよ」と唱え、ガーゼを巻いた竹べらで、米一粒まで残さずになめてしまう。私語はゆるさない。世にあふれる情報・冗舌・虚飾・飽食に背をむけた世界だ▼「貧乏であれ。豊かになれば必ず志を失う。一切世俗に背くべし」と開祖の道元禪師は説いた。それは五つの欲望(財・色・食・名・眠)に打ちかて、というお釈迦さまの教え通りに生きることだった▼中曽根首相だけではない。

禪を求める人間は内外にますます増えてきた。七百年以上も昔、反俗・禁欲をめざした道元らの戦いが、そのまま現代文明への痛烈な批判になっているからだろう▼ところが、さきの脱税さわぎを思い出すまでもなく、一部の寺や坊さんには、俗人も顔負けの欲ばけが見える。経営難から副業に追われ、葬式のおかげで息をつく寺も少くない。だが仏教とは、ほんらい死者を慰めるよりも、いま生きている人間を励まし、導くものだったはずだ。それを忘れた坊さんに、世間が愛想をつかすのは当たり前ではないか▼それに気づいたのか永平寺と総持寺(神奈川県)を本山とする曹洞宗は、すべての寺で座禅をする運動をはじめたそうだ。今さらと驚くような話だが、禪を知らない禪寺さえあるらしい。夏休みには「早起きして座禅をしよう」と各地で子供会を開くという▼お寺は葬式だけではない、とみんなが認めたとき、仏教はよみがえるだろう。

(六月四日(月)朝日新聞)
「天声人語」より転載。



曹洞宗法式作法写真・解説

法式研究会曹洞部会編

全国曹洞宗寺院待望の写真・イラスト・図版本位の行持規範・堂々完成・別冊附録「法要解説」付きという宣伝で刊行された本書は曹洞宗で行われる重要な行事を章毎に構成し、得度式から本葬まで実際に行事に携わる人の立場で編集されており、これまで室中秘とされた「瑞世」作法を、永平寺・総持寺両大本山安居経験者によって、初めて公開されている。

また約六〇〇点の写真・図版・イラストを駆使して、各行事の流れを目で追えるようにしたところなど画期的編集といえよう。

さらに全国の寺院で実際に使われた差定を調査し、全ての寺院で使えるように編集されている。

本書の内容と構成

第一章得度式 第二章首座法儀式 第三章瑞世 第四章晋山式 第五章開山忌 第六章尊宿本葬 写真点数約60点、イラスト約25点

名著普及会刊、B5判、三四〇頁 背継・上製本定価一八、〇〇〇円 法要時の法式作法を確認する意味からも、我々青年宗侶にとって一読にあたいするものといえよう。

販売先 千三三五 埼玉県戸田市笹目四一七七一五 総合図書出版販売 晩図書販売

電話〇四八四―二二一七三四

禅学活問答

かつて来馬琢道師が編集鴻盟社より発行したものの復刻であるが、原本は旧字や旧仮名づかいで誤植も多く文字も小さかったことから今回全面的に新字体とし、活字も大きくして発行された。

第一篇は問答で二〇四種の問答が収録され、第二篇には法問百則のほかに、竹篋商量など、更に付篇として「禅門宝鑑」より一〇〇余種の問答を抜粋して掲載している。

名著普及会刊 B5判・上製本 四〇〇頁、二色刷 販売先 晩図書販売へ

—ご寺院の豊かな明日をクリエイトする—

私達の仕事は 寺院運営企画・建築・設計・営繕工事
境内・墓地清掃保守管理施工
寺院用品/焼却炉など環境用品販売

●あらゆる相談をお待ちしております!

見積無料 ☎(364)0671~3

法律・会計相談も行ってあります。

—日本寺院株式会社—

〒160 東京都新宿区百人町1-13-2

全曹青推薦!

OPEN YOUR MIND
SOTO ZEN

紹介コーナー

お焚上げのできる
水子地蔵

正価 五、〇〇〇円
青年会価格 四、〇〇〇円
千葉県松戸市古ヶ崎三一三三
五九一―二
〇四七三(六七)七三〇七
法友 全曹青係

これは便利、持ち運べる
無線電話
品質保証

無線電話は好評の内に完販致しました。
ありがとうございました。

リコー(普及機)
拡大縮小コピー
FT=三〇五〇

正価 六二八、〇〇〇円
青年会価格 五一五、〇〇〇円
注文先 本会事務局

リコー(高級機)
拡大縮小コピー
FT=四〇六〇

正価 七九八、〇〇〇円
青年会価格 六五四、〇〇〇円
注文先 本会事務局

五十音ペンタッチ 三二〇S
ワードプロセサー

正価 一、〇六八、〇〇〇円
青年会価格 九〇〇、〇〇〇円
注文先 本会事務局

カナ、漢字キー 三一〇D
ワードプロセサー

正価 一、二五〇、〇〇〇円
青年会価格 一、〇六〇、〇〇〇円
注文先 本会事務局

東北曹青推薦
塔婆立(木目仕立)

青年会価格 二〇、〇〇〇円
秋田県平鹿郡平鹿町字鍋倉 永蔵寺内
〇一八二一(四)三〇三八
東北曹青塔婆立特販委員会

本牛革全面使用(黒)
法服用カバン

青年会価格 四八、〇〇〇円
東京都豊島区西池袋三一二五
一―三リバーストーンビル七
階 〇三(九八三)〇八九一
オーシャン物産全曹青係

東北曹青推薦の
坐蒲

坐蒲は販売所変更の為に取り扱
い行務を中止します。住所変更
までしばらくおまち下さい。

除雪、除草用パーナー
女性にも容易につかえる
スパーフレーム

正価 一五、〇〇〇円
青年会価格 二〇、〇〇〇円
注文先 法友全曹青係(前記)

原付免許で乗れ、月まいりに
便利な、リッター四五キロ
省エネカー

正価 四七〇、〇〇〇円
青年会価格 四四五、〇〇〇円
東京都新宿区四谷三丁目一番
斉藤ビル四階
〇三(三五五)二三八一
サン貿易 全曹青係

写経と法話

正価 三、九〇〇円(送料共)
三、五〇〇円に
東京都千代田区西神田一三三八
谷口ビル〇三(三三九三七五)
株式会社出版開発社全曹青係

寺院専門の書道用具店

その他中国美術工芸品



◎ 当店には塔婆専用開発した非常に木
に強い毛切れのしない筆があります。

静岡市新川2-9-31 TEL.0542-81-8005

事務局だより



は個人の実践などご意見、提言、活動紹介等、情報をお寄せ下さい。

☆地方集会(乞う。御参集)

現在まで開催が決定した地方集会是次の通り。()内は開催地

●北信越地区(新潟)

六月九日・十七日

●九州地区(大分)

六月十五日・十六日

●東海地区(名古屋)

十一月十四日・十五日

●関東地区(千葉)

十一月

●東北地区(岩手)

十月下旬

尚その他の事業として、禅のつ

入会のご案内と会費納入のお願い

宗侶としての生甲斐を確かめ、心から話し合える場に参加しませんか。18才以上の宗侶は、誰れでも入会できます。40才までの方は正会員。40才以上の方は賛助会員として参加していただきます。会費は年額 一、〇〇〇円

賛助会員は一口 一、〇〇〇円です。

本年度も総会を開催し、会員各位のご協力により、事業計画にそ

ってスタートいたしました。前年度まで一三〇〇余名の会員

どい資料の作成、伝道ハガキの作成、檀信徒手帳の作成が計画されています。

事務局日誌

5月9日

事務局会
58年度監査

5月10・11日

評議員会
前期禅のつどい中

59年度総会
5月29・30日

理事会
特別事業委員会

6月7・8日

広報委員会
特別事業委員会

19・20日

総合企画委員会
理事会

特別事業委員会
本部事務局会

破草鞋

昔から坊さんは長生きをするというのが相場であったが、そんな時代は過ぎ去ったのか。四十年代で遷化されたと聞けば、昨今では、どうも相場も値くすれの様子である。

粗食であっても規則正しく、精神的に充足した生活を送っていた時代から、現今のように、美食、深酒、不規則、精神的疲労に肉体的疲労を重ねれば、長生きせよと言うのが無理なのかも知れない。

この中で、一番気になるのが精神的疲労というやつだ、これは積極的人間になることである程度は解消されるのだが、どうしても解消できない部分は、高祖道や太祖道による解消であろう。

「最低の生活で最高の生き方をする源は芸術であり文化である」ならば、「仏陀と個人」「自然と人間」「社会と個人」「物質と個人」「家族」などのスキニシップの問題である。即ち夫々の究極的関心の度合いである。これを精神的充足感と呼ぶ。「坐禅をさせて下さい」と言う参禅者に、「うちは坐禅をやらない」と言って追い返す住職は、一体何とのスキニシップが足りないのだろうか。

おたがいに長生きしましょうや。(O記)

名著普及会がお贈りする 曹洞宗特選図書群

和訳 從容録 和綴本 59年7月刊
博林皓堂 監修 大谷哲夫 編者 和本1冊
●菊判・布表紙・帳入り・203頁 ■定価14,500円

曹洞宗 法式作法写真・解説 好評既刊
法式研究会曹洞部会 編 全1冊
●B5判・背綴上製・360頁 ■定価18,000円

曹洞宗 新篇 禅学活問答 好評既刊
来馬琢道 編 全1冊
●B5判・背綴上製・400頁・2色刷 ■定価10,000円

昭和新聞国訳大蔵経 解説部 好評既刊
仏像仏典 解説事典 好評既刊
三井昌史 編 全1冊
●四六判・背綴上製・420頁 ■特価10,000円

名著普及会 (03)724-8031

■内容見本贈呈 SO 係まで葉書で

新篇 応用引導大全 59年9月刊
高橋竹迷 著 全1冊 付 引導香諸作法
●B5判・上製背綴・530頁 ■予価20,000円

昭和新聞国訳大蔵経 宗典部 好評既刊
曹洞宗聖典 付 宏智頌占池
三井昌史 編 全1冊
●四六判・背綴上製・1280頁 ■特価10,000円